



現場からの「生の声」

海難“0”を目指して！！

第一管区海上保安本部

交通部

平成22年9月 特別号

平成22年度漁船海難防止強化旬間が平成22年9月1日から10日まで実施されます。
根室漁業関係者が自主的に行っている海難防止対策を紹介します。

平成17年9月、サンマ棒受網漁船「第三新生丸」と外国籍貨物船「ジムアジア号」が納沙布岬沖で衝突し、第三新生丸乗組員のうち1名は転覆した船内から奇跡的に救助されましたが、残る7名が死亡するという海難事故が発生しました。

この悲惨な海難を教訓に、「根室太平洋海域における航行安全対策会議」を組織し、一丸となって海難防止に取り組んでいる根室、歯舞、落石、根室湾中部の4漁業協同組合、根室漁業無線局、根釧漁船保険組合及び根室海上保安部の活動について紹介します。

この海難の発生海域は、サンマ漁やサケ・マス漁業の好漁場である一方、北米航路として多数の大型船が往来し、また、春から秋にかけて連日濃霧が発生するなど厳しい環境の海域で、根室管内で発生した海難の約8割をサンマやサケ・マス漁船が占める状況にありました。

常に危険と隣り合わせにいる漁業者にも、一度に7名もの尊い仲間を失った衝撃は大きく、「今まで大きな事故がなかったのだから、自分達は大丈夫だろう」という漫然とした意識が、「自分の命は自分で守ろう、そして、仲間の命も守ろう。」という危機意識に変わることとなりました。

この意識を、どのような形で安全対策に反映できるか、操業中の漁船乗組員はどこまでできるか、漁業無線局や漁船保険組合など陸上からの有効な支援は何かなどの検討を重ね、生まれたのが「航行安全リーダー制度」です。

【航行安全リーダー制度はシンプルですが効果があります。】

《航行安全リーダーの任務》

根室海上保安部長から、サンマ漁船団毎に1名指名された航行安全リーダーは、漁場との往復航行時(特に帰港中)、主に船団所属船に対して、自らが船団の一員であるからこそ判るタイミングで、**居眠り防止や激しい見張りの励行など安全航行を呼び掛けます**。また、船団に接近してくる大型船を発見した場合は、**航行安全リーダーから直接、船団及び大型船に対して注意を促します**。

《陸上支援》

漁業無線局から、1日3回、気象情報等の定時放送に併せ、安全航行についての呼び掛けを行うほか、第一管区海上保安本部から、**AIS(船舶自動識別装置)のメッセージ送信機能**により、サンマ漁船操業海域付近に向け航行する**大型船に対して、漁船の集団操業を知らせる**など、安全に関する支援を行います。

また、根室漁船保険組合からはリーダーのユニホームと帽子が提供されています。

《新たな展開》

制度開始から5シーズン目に入り、この間、サンマ漁での死亡や行方不明を伴う重大海難の発生はなく、この制度の有効性が確認できたところです。今後、サンマ漁だけでなく、サケ・マス漁や他漁種にも、それぞれの操業形態に合った形でこの制度が応用されるよう、「根室太平洋海域における航行安全対策会議」では検討を続けています。

航行安全リーダーからのコメント



中陳 順次氏 第53よし丸漁労長(歯舞漁協所属)
安全は一人ひとりが心掛けるものであることは皆解かっているのですが、最近航海計器に頼り過ぎている面が多いように感じています。航行安全リーダーとして、そういう視点から海難防止に係わっていきたくと考えています。



浅水 隆二氏 第35松栄丸漁労長(落石漁協所属)
集団操業は、お互いが助け合って成り立つものですが、大きな安心感がある分、油断も生じるかと思えます。
初めての航行安全リーダーですが、普段自分が感じていることを海難防止に役立てられればと考えています。

【その他の航行安全リーダーの方々】

木村 隆氏
第65新生丸漁労長(八戸機船漁協所属)
東野 義男氏
第72海鷹丸漁労長(歯舞漁協所属)

田中 勝志氏
第38萬盛丸漁労長(根室漁協所属)
本島 栄一氏
第65秀栄丸漁労長(根室湾中部漁協所属)

指名書伝達



根室海上保安部次長から船団各リーダーに指名書の伝達、リーダーユニホーム及び帽子が手渡されます。

ご要望、ご意見は第一管区海上保安本部交通部まで
TEL 0134-27-0118 (内線: 2615、2623)

次号へ続く～